

「魚の経済学（連載）」『経済セミナー』No. 636-646

〔概要〕

食料資源の争奪戦が繰り広げられる今日的状況をふまえて、2008年4月号（第1回）～2009年2/3月号（第11回）の11号において水産資源・水産業と経済学とのかかわりについて解説した。第1回は水産資源管理がなぜ難しいのかについて市場メカニズムが機能しない理由から説明、第2回はツナ缶やカニカマ生産を事例に国際分業の実態について説明、第3回は日本と中国の内水面漁業について解説し、中国の統計の不備と日本の内水面漁業の不振を説明している。第4回は排他的経済水域と国境紛争について、第5回はオリンピック方式による漁業生産の功罪について、第6回は水産物市場における情報の非対称性について論じている。第7回は日本の魚介類消費について、第8回は漁業の外部不経済について、第9回は漁業と経済開発について、第10回は水産物貿易について、第11回は漁業における規制改革について論じている。